

平成二十年度決算につきまして、日本共産党の意見

◆三十一番（今井光子）（登壇）平成二十年度決算につきまして、日本共産党の意見を述べさせていただきます。

全体に資料が工夫され、中身がわかりやすく示されていることは評価できます。

議第七十三号平成二十年度奈良県水道用水供給事業、議第七十四号平成二十年度奈良県病院決算特別会計については賛成、議第八十号平成二十年度奈良県歳入歳出決算について反対いたします。以下、その理由を述べます。

病院決算は、厳しい人的体制のもとで医業収入、収益を伸ばすなど健闘されていると思います。引き続き、県民が安心してかかれるよう人的体制の充実を要望しておきます。

水道につきましては、健全な運営努力が行われていると判断いたしました。

よって、議第七十三号、議第七十四号決算に賛成いたします。

平成二十年度歳入歳出決算につきましては、九億円の単年度黒字ですが、人件費三十四億円の削減、県民の暮らしに係る予算では百四十九億円の不用額が生じており、一つ一つの施策が、実施基準を含め、実情に見合っているのか、その施行をするのに人手が足りているのかを十分吟味する必要があります。

歳入は、国庫補助金が九十六億七千万円の増加となっていますが、麻生内閣の緊急経済対策によるもので、二月という時期に補正予算で増額され、九十七億円が基金に積まれるなど、有効に利用されていません。一方、平城遷都一三〇〇年に向けた事業や大型公共事業で掲載残高は三十二億円も増え、トータルでは九千八百六十億円にも達しています。一日二億円の借金返済が生じています。これ以上、無駄な事業による借金は増やすべきではないと考えます。

また、県民が反対していた県営プールの撤去を強行いたしました。いまだに見通しのないホテル誘致はやめるべきです。さらに、世界遺産平城京の地下をトンネルを掘ってつくる予定の京奈和自動車道路大和北ルート、県立医科大学の移転を視野に入れた関西学研都市高山第二工区の開発は中止すべきです。

よって、議第八十号に反対いたします。